

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	地域交流センター運営管理委託事業				事業期間	平成18年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-4-1	他に関連する基本事業	6-1-1	—	—	—	—	所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	管理運営主体であるNPO法人ゆうの自主事業によって、世代間の交流や新たな文化創造が醸成され、また自由通路を通じて東西への回遊性向上と中心市街地の活性化促進、日常的な賑わいと交流拠点施設としていくための土台となる運営経費を委託料として支出し、民間ならではの効率的で効果的な管理運営を行っていくことを目的とする。							手段 (どのような方法で実現するのか)	市から交付される委託料に加え法人の営業努力によって利用料金の収入を得、日常的な賑わいを創出するとともに、NPO法人ゆうの構成員である事務局員、正会員（理事・監事）のほか、ボランティアが新たな芸術文化、各種イベントを市民に提供し、賑わいの拠点施設としていく。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	指定管理団体（NPO法人ゆう）							成果 (どのような効果が得られるのか)	市民で構成するNPO法人が管理運営していることで市民の手で支えられているという意識が広がり、利用者の施設に対する愛着度が向上して利用者数・利用料金の増加につながる。また市街地と隣接した交流センターでの自主事業を展開することによって市街地への経済波及効果と市民への新たな芸術文化意識の醸成も期待でき、賑わい交流拠点が形成される。					
事業開始時の状況・これまでの経緯			地域交流センターゆうは、市民会館の代替施設として平成19年1月7日にオープンした。 NPO法人が指定管理者となり、独自の自主事業の展開や利活用団体に対するPR行うなど、効率的で効果的な管理運営が行われている。 市からは必要最小限の事務費、自主事業費、人件費及び維持管理費を支出することとしている。											

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国	費 計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道	費 計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額	19,800,000	38,900,000	18,800,000	77,500,000	16,000,000	16,600,000	26,200,000	58,800,000					0	136,300,000
		実績額	50,000,000	26,500,000	33,800,000	110,300,000	16,000,000	16,600,000		32,600,000					0	142,900,000
	その他	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額	829,000	15,978,000	43,541,000	60,348,000				0					0	60,348,000
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計 画 額	61,097,000	61,097,000	61,097,000	183,291,000	80,142,000	78,741,000	78,741,000	237,624,000	74,741,000	78,741,000	78,741,000	78,741,000	310,964,000	731,879,000
		予算計上額	41,236,000	9,811,000	15,247,000	66,294,000	64,142,000	63,353,000	55,913,000	183,408,000					0	249,702,000
		実績額	15,420,429	42,768,009	41,426,043	99,614,481	59,565,752	63,816,520		123,382,272					0	222,996,753
	事業費合計	計 画 額	61,097,000	61,097,000	61,097,000	183,291,000	80,142,000	78,741,000	78,741,000	237,624,000	74,741,000	78,741,000	78,741,000	78,741,000	310,964,000	731,879,000
		予算計上額	61,865,000	64,689,000	77,588,000	204,142,000	80,142,000	79,953,000	82,113,000	242,208,000	0	0	0	0	0	446,350,000
		実績額	65,420,429	69,268,009	75,226,043	209,914,481	75,565,752	80,416,520		155,982,272	0	0	0	0	0	365,896,753
	事業費予算の内容		委託料 61,865千円	委託料 64,689千円	委託料 77,588千円		委託料 80,142千円	委託料 79,953千円	委託料 82,113千円							
	前年度予算との比較 (増減理由)		小破修繕以外を直営化したことによる委託料経費の減	維持管理経費等の増による委託料経費の増	維持管理経費等の増による委託料経費の増		維持管理経費等の増による委託料の増	維持管理経費等の減による委託料の減	維持管理経費等の増による委託料の増							
	実績との比較 (増減理由)		維持管理経費等の増による委託料経費の増	維持管理経費等の増による委託料経費の増	光熱水費の減による委託料の減		光熱水費、人件費の減による委託料の減	維持管理経費等の増による委託料経費の増								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：利用回数				指標の求め方：施設の年間利用回数									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：利用者数				指標の求め方：施設の年間利用者及び来館者数計									
				第 1 次実施 3 カ年計画				第 2 次実施 3 カ年計画				第 3 次実施 4 カ年計画					第 7 期 総 合 計 画 計
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 カ年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 カ年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 カ年 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/回/年)	計画値 2,410 実績値 1,569	2,450 2,506	2,490 2,596		2,670 2,489	2,530 2,441	2,570		2,650	2,690	2,730	2,770			
		成果指標 1 (単位/人/年)	計画値 59,270 実績値 24,782	59,370 44,789	60,470 50,539		61,570 49,048	62,715 50,086	63,820		64,920	66,020	67,120	68,260			
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている				上がっている						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				変わらない						
		総合評価					良好である				良好である						
		総合評価の判断理由 または指標の実績値に関する 自己分析	自己分析： 新型コロナウイルス感染症の影響により、各指標は計画値を大きく下回った。活動自粛や臨時休館、更には感染症防止対策等の制約がある中、指定管理者が工夫を凝らした自主事業を展開することによって、市街地への経済波及効果と市民への新たな芸術文化意識が醸成され、賑わい交流拠点が形成されるよう施設の管理環境を整備した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく運営でき、活動指標は計画値を達成した。外出控えや利用控えが見られる中、成果指標は計画値に及ばなかったものの、利用者数が回復し、昨年度を大きく上回った。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。成果指標は計画値に達しなかったが、前年度を上回り、日常的な賑わいや市街地への経済波及効果、市民の新たな芸術文化意識の醸成に繋がっている。	判断理由： 新型コロナウイルス感染症の影響により各指標が計画値に及ばない時期もあったが、感染症対策環境の整備や指定管理者の工夫により回復傾向にあり、賑わい交流拠点の形成に一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価を「良好である」とした。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化し施設利用は減少、活動指標・成果指標ともに計画値に達しなかったが、指定管理者であるNPO法人ゆうによる工夫ある自主事業が展開され、世代間交流や市民の芸術文化意識の醸成、日常的な賑わい交流拠点としての活用に繋がっている。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化し施設利用は減少傾向にある。活動指標・成果指標ともに計画値に達しなかったが、指定管理者であるNPO法人ゆうによる工夫ある自主事業が展開されており、世代間交流や市民の芸術文化意識の醸成、日常的な賑わい交流拠点としての活用に繋がっている。	自己分析： コロナ禍以降、各指標は計画値を下回っているが、成果指標については指定管理者の工夫により回復傾向にあり、賑わい交流拠点の形成に一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価を「良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性						現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館等により利用者数及び来館者数が落ち込んだ時期もあったが指定管理者の工夫により回復傾向にある。令和5年度に新型コロナウイルス感染症が5類感染症に引き下げられたことに伴い、コロナ前同様に施設も稼働していくことが考えられる。市内外からの評価は高く、事業も定着していることから、現在の施設機能を維持していく必要があるため「現状のまま継続」とする。				R8： 指定管理者の工夫により、活動指標である施設の年間利用回数については概ね維持しており、利用者数についても回復傾向にある。自主事業を含め、市内外からの評価は高く、事業も定着していることから、現在の施設機能を維持していく必要があるため「現状のまま継続」とする。				R10：					

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	○
--------	---	--------	---

事業名	地域交流センター大規模改修事業				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	3-4-1	他に関連する基本事業	2-3-1	—	—	—	—	所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	地域交流センターの既存設備・備品等の改修・更新を効果的・効率的・計画的に推進することにより、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全するため。							手段 (どのような方法で実現するのか)	施設・備品等を点検し、所要の改修・更新を推進する。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	地域交流センター							成果 (どのような効果が得られるのか)	市設備・備品の故障が原因で施設利用者の主催・来場者が予定した事業の使用できなくなる事態を回避し、事故なく安心・安全に使用できる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		地域交流センターは平成18年度の建設後15年が経過し、主要施設設備・建物に係る大規模改修を行う必要が生じてきているため、指定管理者と連携・協議を図りながら計画的に改修できるよう、令和3年度より新たな事務事業とした。												

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額		9,801,000		9,801,000				0					0	9,801,000
		実績額		0		0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0	72,900,000	34,500,000		107,400,000					0	107,400,000
		予算計上額		1,000,000		1,000,000	72,900,000	86,100,000	26,700,000	185,700,000					0	186,700,000
		実績額		0	32,500,000	32,500,000	69,600,000	82,100,000		151,700,000					0	184,200,000
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額	2,599,000	56,188,000	34,132,000	92,919,000				0					0	92,919,000
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	2,599,000	179,594,000	82,772,000	264,965,000	58,110,000	153,834,000		211,944,000	16,000,000			40,156,000	56,156,000	533,065,000
		予算計上額	0	89,000	34,200,000	34,289,000	58,110,000	40,048,000	23,154,000	121,312,000					0	155,601,000
		実績額	3,860,000	65,578,700	33,144,150	102,582,850	57,469,250	43,484,000		100,953,250					0	203,536,100
	事業費合計	計画額	2,599,000	179,594,000	82,772,000	264,965,000	131,010,000	188,334,000	0	319,344,000	16,000,000	0	0	40,156,000	56,156,000	640,465,000
		予算計上額	2,599,000	67,078,000	68,332,000	138,009,000	131,010,000	126,148,000	49,854,000	307,012,000	0	0	0	0	0	445,021,000
		実績額	3,860,000	65,578,700	65,644,150	135,082,850	127,069,250	125,584,000	0	252,653,250	12,069,000	0	0	0	0	387,736,100
	事業費予算の内容		修繕料 2,599千円	工事請負費 67,078千円	工事請負費 68,332千円		修繕料 308千円 工事請負費 130,702千円	工事請負費 126,148千円	修繕料 3,522千円 工事請負費 46,332千円							
	前年度予算との比較 (増減理由)			大規模改修工事 予定等の決定による増	大規模改修工事 内容の決定等による増		計画的な大規模 改修に加えて必要 な改修が増えたことによる増	大規模改修工事 の内容決定による減	大規模改修工事 の内容決定等による減							
	実績との比較 (増減理由)		緊急修繕に係る 経費の増	入札による減	入札による減		入札による減	入札による減								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：利用回数	指標の求め方：施設の年間利用回数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：施設設備の故障による使用不能回数	指標の求め方：施設設備の故障による使用不能回数

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 総合
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
事業 評価 内容	指標	活動指標1 (単位/回)	計画値	2,410	2,450	2,490		2,670	2,530	2,570		2,650	2,690	2,730	2,770		
		実績値	1,569	2,506	2,596		2,489	2,441									
	成果指標1 (単位/回)	計画値	0	0	0		0	0	0		0	0	0	0			
	実績値	0	0	0		0	0										
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				変わらない						
		総合評価					良好である				良好である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 指定管理者との連携・協議して、当初より計画していた南側駐車場や防災設備の改修の他にも適宜、ボイラー関連の配管やポンプの修繕を行い、施設利用者が安全・安心に活用できるよう施設の環境の維持・保全を図った。新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛や臨時休館を行ったため、活動指標は計画値を大きく下回った。成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく施設を運営し、活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議して計画的な改修を行ったほか、舞台設備やボイラー施設の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保全を図り成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議を行い計画的な改修を行ったほか、空調設備の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保全を図ったため、成果指標は計画値を達成した。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成し、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全することに一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化し施設使用は減少、活動指標は計画値に達しなかった。開館から18年が経過し修繕が増加傾向にあるが、指定管理者と連携・協議を行い計画的な改修に取組むほか、エアコンや暖房用加圧ポンプ等の緊急的な修繕を行い、施設の維持・保全を図り成果指標の計画値を達成した。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化しており、施設利用回数は減少傾向にある。開館から19年が経過しており、修繕が増加傾向にあるが、指定管理者と連携・協議を行い計画的な改修に取り組んでいる。今年度についてはボイラー室の温水系統三方弁やパナールヒーターの緊急的な修繕を行い、施設の維持・保全を図り、成果指標の計画値を達成した。	判断理由： 活動指標は計画値を若干下回っているが、成果指標は計画値を達成した。安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全することに一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
	今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続							
方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 建設後16年が経過し、主要施設設備・建物に係る大規模改修を行う必要がある。指定管理者との連携・協議を行いながら施設設備の現状を随時把握し、計画的に改修できるよう「現状のまま継続」とする。				R8： 建設後19年が経過し、主要施設設備・建物に係る大規模改修を行う必要が生じている。指定管理者との連携・協議を行いながら、施設設備の現状を随時把握し、計画的に改修できるよう「現状のまま継続」とする。				R10：							

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	地域交流センター備品等整備事業				事業期間	令和3年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	新規(予算)	建設・建設外	建設	第7期総合計画の位置付け	3-4-1	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	社会教育課社会教育係
目的 (何のために実施するのか)	故障等により使用不能となった地域交流センターに設置している備品を更新または、施設利用上必須となる備品を購入することにより、施設利用に支障を生じさせないようにすることを目的とする。						手段 (どのような方法で実現するのか)	施設の指定管理者であるNPO法人ゆうと備品の状態を情報を共有し把握しつつ、設置備品と同等または後継機種となるのするなど、適切な規格の備品に更新する。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	地域交流センター						成果 (どのような効果が得られるのか)	備品が使用不能となって、施設が利用できない事態にならないよう適切に更新することにより、施設利用に支障が生じなくなる。						
事業開始時の状況・これまでの経緯		地域交流センターは平成18年度の建設後15年が経過し、維持管理について施設設備・備品の更新を行う必要が生じてきているため、指定管理者と連携・協議を図りながら計画的に更新できるよう、令和3年度より新たな事務事業とした。												

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額	3,632,000	1,174,000		4,806,000				0					0	4,806,000
		実績額	3,437,000	1,155,000		4,592,000				0					0	4,592,000
	一般財源	計画額	6,315,000	65,000	294,000	6,674,000	660,000	2,562,000		3,222,000	2,321,000	10,000		31,000	2,362,000	12,258,000
		予算計上額	2,683,000	89,000	142,000	2,914,000	660,000	952,000	1,070,000	2,682,000					0	5,596,000
		実績額	2,455,700	88,440	133,430	2,677,570	649,000	940,500		1,589,500					0	4,267,070
	事業費合計	計画額	6,315,000	65,000	294,000	6,674,000	660,000	2,562,000	0	3,222,000	2,321,000	10,000	0	31,000	2,362,000	12,258,000
		予算計上額	6,315,000	1,263,000	142,000	7,720,000	660,000	952,000	1,070,000	2,682,000	0	0	0	0	0	10,402,000
		実績額	5,892,700	1,243,440	133,430	7,269,570	649,000	940,500	0	1,589,500	0	0	0	0	0	8,859,070
	事業費予算の内容		備品購入費 6,315千円	備品購入費 1,263千円	備品購入費 142千円		備品購入費 660千円	備品購入費 952千円	備品購入費 1,070千円							
	前年度予算との比較 (増減理由)			購入予定備品の決定による減	購入予定備品の決定による減		購入予定備品の決定による増	購入予定備品の決定による増	購入予定備品の決定による増							
	実績との比較 (増減理由)		入札・見積合わせによる減	入札による減	見積合わせによる減		見積合わせによる減	見積額を下回る契約額となったことによる減								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：利用回数	指標の求め方：施設の年間利用回数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：施設設備の故障による年間不能回数	指標の求め方：施設設備の故障による年間不能回数

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/回/年)	計画値 2,410 実績値 1,569	2,450 2,506	2,490 2,596		2,670 2,489	2,670 2,441	2,670		2,650	2,690	2,730	2,770			
		成果指標1 (単位/回/年)	計画値 0 実績値 0	0 0	0 0		0 0	0 0	0		0	0	0	0			
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					変わらない				変わらない						
		総合評価					良好である				良好である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 指定管理者との連携・協議して、計画していた大ホールのワイヤレスマイクの更新等を行い、施設利用者が安全・安心に活用できるよう施設の環境の維持・保全を図った。 新型コロナウイルス感染症の影響により活動自粛や臨時休館を行ったため、活動指標は計画値を大きく下回った。成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症対策が進み臨時休館することなく施設を運営し、活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議して計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図り成果指標は計画値を達成した。	自己分析： 新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な活動が平常時に戻ってきたことにより活動指標は計画値を達成した。指定管理者と連携・協議を行い、計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図ったため、成果指標は計画値を達成した。	判断理由： 活動指標・成果指標ともに計画値を達成し、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全することに一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化し施設使用は減少、活動指標は計画値に達しなかった。開館から18年が経過し既存備品の故障等が増加傾向にあるが、指定管理者と連携・協議し計画的な備品整備を行い、施設の環境維持・保全を図っているため成果指標の計画値を達成した。	自己分析： コロナ禍以降、芸術文化鑑賞に対する人々の習慣が変化しており、施設利用回数は減少傾向にある。開館から19年が経過しており、既存備品の故障等が増加傾向にある。指定管理者と連携・協議を行いながら、計画的な備品整備を実施しており、成果指標の計画値を達成した。	判断理由： 活動指標は計画値を若干下回っているが、成果指標は計画値を達成しており、安心・安全に活用できる施設環境を維持・保全することに一定の成果があった。効率性についても大きく変化していないことを踏まえ、総合評価は「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
			今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続					
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 建設後16年が経過し、主要設備・備品の更新を行う必要が生じてきている。指定管理者との連携・協議を行いながら備品の現状を随時把握し、計画的に更新できるよう「現状のまま継続」とする。				R8： 建設後19年が経過し、主要設備や備品について更新を行う必要が生じている。指定管理者との連携・協議を行いながら、備品の現状を随時把握し、計画的に更新できるよう「現状のまま継続」とする。				R10：						

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名		市民文化祭実行委員会交付金事業				事業期間	昭和43年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-4-1	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	社会教育課社会教育係	
目的 (何のために実施するのか)	自らが企画・運営して、文化活動を行っているすべての市民が日頃の成果を発表する場を設け、また、多くの人に鑑賞してもらうことで、その学習成果の地域へ及び技術面・活動意欲の向上を図るとともに、一般市民の文化活動への関心を高め、砂川市の文化活動が活性化される。							手段 (どのような方法で実現するのか)	市民文化祭参加団体（公民館グループサークル・文化協会加盟団体・ふれあいセンターサークル・一般参加団体・個人）により準備運営全般にわたり協議する実行委員会が組織されていて、その実行委員会に交付金を交付することにより、市民文化祭が実施される。						
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民文化祭実行委員会							成果 (どのような効果が得られるのか)	市民文化祭に多くの人に参画・鑑賞してもらうことにより、学習成果の地域への還元や技術面・活動意欲の向上を図る機会が確保される。						
事業開始時の状況・これまでの経緯		昭和43年度より市内文化団体等が日頃の活動成果を発表する場として開催されている、砂川市民文化祭の経費の全額分を交付金として支出している。 また、平成20年度より行財政改革方針により交付金額の10%削減を行った。 令和6年度より公民館管理係から社会教育課社会教育係へ事務移管となった。													

【DO】

実績

(単位：円)

			第1次実施3力年計画				第2次実施3力年計画				第3次実施4力年計画					第7期 総合計画 計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3力年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3力年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4力年 合 計	
投入された事業費の推移	国 費	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	道 費	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	地 方 債	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額	300,000			300,000				0					0	300,000
		実 績 額	0			0				0					0	0
	そ の 他	計 画 額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実 績 額				0				0					0	0
	一 般 財 源	計 画 額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	324,000	1,296,000	3,240,000
		予算計上額	24,000	324,000	324,000	672,000	324,000	324,000	324,000	972,000					0	1,644,000
		実 績 額	0	324,000	324,000	648,000	324,000	324,000		648,000					0	1,296,000
	事業費合計	計 画 額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	324,000	1,296,000	3,240,000
		予算計上額	324,000	324,000	324,000	972,000	324,000	324,000	324,000	972,000	0	0	0	0	0	1,944,000
		実 績 額	0	324,000	324,000	648,000	324,000	324,000	0	648,000	0	0	0	0	0	1,296,000
	事業費予算の内容		砂川市民文化祭 交付金 324千 円	砂川市民文化祭 交付金 324千 円	砂川市民文化祭 交付金 324千 円		砂川市民文化祭 交付金 324千 円	砂川市民文化祭 交付金 324千円	砂川市民文化祭 交付金 324千円							
	前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度と同額		前年度同額	同額	同額							
	実績との比較 (増減理由)		新型コロナウイルス感染症拡大 防止対策のため 事業を中止した ことによる減	同額	同額		同額	同額								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：交付金額（砂川市民文化祭実行委員会交付金）				指標の求め方：交付金額（砂川市民文化祭実行委員会交付金）									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：市民文化祭市民参加率				指標の求め方：（出演・発表者数＋鑑賞者数）/住民基本台帳人口（３月末）×100									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期 総 合 計 画 合 計
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	
事業 評価	指標	活動指標 1 （単位/円）	計画値 324,000	324,000	324,000		324,000	324,000	324,000		500,000	324,000	324,000	324,000			
		実績値	0	324,000	324,000		324,000	324,000									
	成果指標 1 （単位/%）	計画値	15.0	14.5	14.5		14.0	14.0	13.5		13.5	13.0	13.0	12.5			
		実績値	－	6.3	7.8		10.1	11.0									
	評価内容	事業の達成度 （活動指標をもとに評価）				達成されている				達成されている							
		事業の成果 （成果指標をもとに評価）				変わらない				変わらない							
		事業の効率性 （事業費に対する成果）				少し上がっている				少し上がっている							
		総合評価				良好である				良好である							
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 事業の実現はできなかったが、実行委員会組織の各構成団体から選出される役員を中心として開催されており、それなりに砂川市の文化活動を活性化に寄与している。	自己分析： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから、それなりに実績が上がっている。	自己分析： 活動指標は計画値を達成し、当初の予定通りの交付金額となった。成果指標は計画値に達しなかったものの、前年度と比較すると発表者数、鑑賞者数ともに増加し、実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民へ文化活動に触れる機会を提供することができた。	判断理由： 令和元年度以来の通常開催を行った。令和元年度と比較すると、発表者、鑑賞者は減少したものの、新型コロナウイルス感染症の拡大対策や事業企画を文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に文化活動に触れる機会を提供することができたことから「良好である」と判断した。	自己分析： 活動指標は計画値を達成、実行委員会へ交付された限られた財源を有効活用して事業が展開された。成果指標は計画値を達成しなかったものの前年度より上昇し、市民が主体となって企画・運営を行うことで出演・出展者と鑑賞者双方が楽しみながら芸術文化活動に取り組む機会となっている。	自己分析： 活動指標は計画値を達成し、実行委員会へ交付された財源を有効活用して事業が展開された。成果指標は計画値を達成しなかったものの年々上昇傾向にあり、市民が主体となって企画・運営を行い、一般市民の文化活動への関心を高め、砂川市の文化活動の活性化につながっている。	判断理由： 活動指標は達成されており、成果指標についても年々参加率が上昇傾向にある。事業実施について、文化活動を行っている団体で組織する実行委員会が主体的に運営を行いつつ、市民に対し文化活動に触れる機会を提供することができていることから、「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：			
			今後の方向性				現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 （R5、R8、R10）		R5： 実行委員会が主体的に活動し、経費が限られるなどの制約の中、より良い方法・手段を検討して、参加者（出場・出展・鑑賞者）も楽しみながら芸術文化の振興を図る事業として実施されており、「現状のまま継続」とした。				R8： 実行委員会主導のもと、限られた予算の範囲内で創意工夫を凝らし、参加者（出場者・出展者・鑑賞者）の満足度向上と芸術文化の振興を両立させている。今後も芸術文化の振興を図る事業として実施すべく、「現状のまま継続」とする。				R10：						

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(单位: 円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	520,000	1,700,000	520,000	520,000	520,000	520,000	2,080,000	5,340,000
		予算計上額	520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	520,000	1,700,000					0	3,260,000
		実績額	231,200	214,100	408,844	854,144	476,385	321,098		797,483					0	1,651,627
	事業費合計	計画額	520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	520,000	1,700,000	520,000	520,000	520,000	520,000	2,080,000	5,340,000
予算計上額		520,000	520,000	520,000	1,560,000	660,000	520,000	520,000	1,700,000	0	0	0	0	0	3,260,000	
実績額		231,200	214,100	408,844	854,144	476,385	321,098	0	797,483	0	0	0	0	0	1,651,627	
事業費予算の内容		文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつ り交付金 283千円	文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつ り交付金 283千円	文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつ り交付金 283千円		文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 340千円 みんなの音楽まつ り交付金 283千円	文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつ り交付金 283千円	文化協会補助金 37千円 文化振興事業補助 金 200千円 みんなの音楽まつ り交付金 283千円								
	前年度予算との比較 (増減理由)		みんなの音楽まつり実施内容見直しによる交付金の減	前年度同額	前年度と同額		「空知管内郷土芸術祭兼道民芸術祭」開催地負担金の増	「空知管内郷土芸術祭兼道民芸術祭」開催地負担金の減	同額							
	実績との比較 (増減理由)		新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため「みんなの音楽まつり」を中止したことによる減 283千円	「空知管内郷土芸術祭兼道民芸術祭」の減 17千円 新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため「みんなの音楽まつり」を中止したことによる減 283千円	上部団体負担金の減 「みんなの音楽まつり」事業内容確定による減		文化協会補助金（上部団体負担金）の減 みんなの音楽まつり事業内容決定による減	文化協会補助金（上部団体負担金）の減 みんなの音楽まつり事業内容決定による減								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）				指標名：補助金額				指標の求め方：補助金額									
成果指標 1（「成果」をもとに設定）				指標名：文化協会加盟団体合計会員数				指標の求め方：文化協会加盟団体合計会員数									
				第 1 次実施 3 力年計画				第 2 次実施 3 力年計画				第 3 次実施 4 力年計画					第 7 期
				第 1 年次 (3年度)	第 2 年次 (4年度)	第 3 年次 (5年度)	実施 3 力年 合 計	第 4 年次 (6年度)	第 5 年次 (7年度)	第 6 年次 (8年度)	実施 3 力年 合 計	第 7 年次 (9年度)	第 8 年次 (10年度)	第 9 年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施 4 力年 合 計	総 合 計 画 合 計
事業 評価	指標	活動指標 1 (単位/円)	計画値	588,000	588,000	588,000		588,000	588,000	588,000		588,000	588,000	588,000	588,000		
			実績値	231,200	214,100	408,844		476,385	321,098								
		成果指標 1 (単位/人)	計画値	170	170	160		160	150	150		140	140	130	130		
			実績値	—	131	131		150	150								
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					ほぼ達成されている				ほぼ達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					あまり上がっていない				少し上がっている						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている				上がっている						
		総合評価					良好である				良好である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 砂川市文化協会が主催し事業を実施すること で、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつ ながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けに つながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上 がってきているものと判断する。	自己分析： 砂川市文化協会が主催し事業を実施すること で、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつ ながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けに つながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上 がってきているものと判断する。	自己分析： 活動指標・成果指標ともに計画値に達しな かったが、砂川市文化協会が主催する事業を支援すること で市民文化の振興を図るとともに、文化協会の役割を明確化することにつ ながった。	判断理由： 砂川市文化協会が主催し事業を実施すること で、市民文化の振興を図ることができ、文化協会の役割を明確化することにつ ながった。また、市民の参加も得られ、市民文化の振興のための意識付けに つながっていることから、一定程度目的を満たす実績は上 がってきており、「良好である」と判断した。	自己分析： 活動指標は計画値を達成しな かったが、砂川市文化協会の運営費や文化振興事業、みんなの音楽まじりの事業費を一部補助 することで、継続的な芸術文化活動の基盤を支えている。	自己分析： 活動指標は計画値を下回ったものの、砂川市文化協会の運営費および各事業への補助を通じ て、芸術文化活動の継続的な基盤維持に寄与している。	成果指標については計画値を達成しており、砂川市における芸術文化振興の中核を担う文化協会の安定的な運営が、市民の芸術文化振興につ ながっている。	判断理由： 砂川市文化協会が主体となつて各事業を実施することで、市民の芸術文化活動を活性化させる役割を果たしている。市民の参画も着実に図られており、砂川市の文化振興に向けた土壌形成に寄与していることから、総合評価を「良好である」とした。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
	今後の方向性						現状のまま継続				現状のまま継続						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 文化協会の活動を支援する事業として必要であり、砂川市の芸術・文化振興を図る取組について、文化協会と協議しながら事業内容を検討していくことから、「現状のまま継続」とした。				R8： 文化協会の活動を支援する事業として必要であり、砂川市の芸術・文化振興を図る取組について、文化協会と協議しながら事業内容を検討していくことが望ましいため、「現状のまま継続」とした。				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：①指定文化財情報提供回数 ②文化財保護	指標の求め方：①指定文化財情報提供回数をカウント ②文化財保護審議会開催回数をカウント
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：文化財関連事業市民参加率	指標の求め方：文化財関連事業市民参加者数/住民基本台帳人口（3月末）×100

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/①回、 ②回)	計画値 ①3、②2 実績値 ③2、②1	①3、②2 ①2、②2	①3、②2 ①①、②①		①3、②2 ①3、②2	①3、②2 ①3、②①	①3、②2		①3、②2	①3、②2	①3、②2 ①3、②2			
		成果指標1 (単位/%)	計画値 1.76 実績値 —	1.74 0.08	1.71 0.04		1.68 1.28	1.65 1.34	1.62		1.59	1.56	1.53 1.50			
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)				ほぼ達成されている				ほぼ達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)				あまり上がっていない				あまり上がっていない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)				少し上がっている				少し上がっている						
		総合評価				良好である				良好である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和3年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっている。	自己分析： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和4年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となっている。	自己分析： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和5年度は実施に至らなかったため活動指標、成果指標ともに計画値を達成しなかった。実施に至った際には、年末の街頭餅つきや北海道義士祭での活動など、郷土に対する認識や文化財に対する理解を深める機会となると考えている。	判断理由： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、令和4年度は実施に至らなかったが、年末の街頭もちつき、北海道義士祭などの活動がある。郷土に対する認識や文化財に対する理解をそれなりに深める機会となった。	自己分析： 市の唯一の指定文化財である「街頭もちつき」が5年ぶりに開催され、活動指標は計画値に達しなかった。今年度についても街頭もちつきが開催され、市民が砂川の文化財を再認識する機会となった。	自己分析： 文化財保護審議会の開催回数が減少したため、活動指標・成果指標ともに計画値に達しなかった。今年度についても街頭もちつきが開催され、市民が砂川の文化財を再認識する機会となった。	判断理由： 市の指定文化財である「街頭もちつき」は、砂川もちつき保存会により活動、保存されており、郷土に対する認識や文化財に対する理解を深める機会となっていることから、「良好である」と判断した。	自己分析：	自己分析：	自己分析：	自己分析：	判断理由：		
			今後の方向性				現状のまま継続		・		現状のまま継続					
	方向性の判断理由改善、改革の内容 (R5、R8、R10)		R5： 指定文化財保存のためには保持団体活動の継続が必要であることから、連携体制を密接にして会員数維持などに努めていく。また、文化財保護審議会委員として活動の充実を図っていくため、文化財に対する理解を深めていく必要があり、「現状のまま継続」とした。				R8： 指定文化財保存のためには保持団体活動の継続が必要であることから、連携体制を密接にし、団体維持及び会員確保への支援を継続するため、「現状のまま継続」とした。				R10：					

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：史跡標柱・開拓記念碑等の数	指標の求め方：史跡標柱・開拓記念碑等の数
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：史跡標柱・開拓記念碑の巡回点検等回数	指標の求め方：史跡標柱・開拓記念碑の巡回点検等回数

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業評価	指標	活動指標 1 (単位/基)	計画値	21	21	21		21	21	21		21	21	21	21		
			実績値	21	21	21		21									
		成果指標 1 (単位/回)	計画値	3	3	3		3	3	3		3	3	3	3		
			実績値	3	3	3		2									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている				変わらない						
		総合評価					良好である				良好である						
			総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行い、計画していた史跡・標柱の修繕も実施できたことから、一定程度事業目的を達成できたものと評価する。	判断理由：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了したことから、「良好である」と判断した。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	自己分析：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了し、郷土の歴史資産を良好に保つことに繋がった。	判断理由：定期的に史跡標柱・開拓記念碑等の点検を行い、状態を把握し必要な保護及び軽微な補修を行った。計画していた史跡・標柱の修繕も完了したことから、「良好である」と判断した。	
		今後の方向性					現状のまま継続				完了						
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 定期的な点検を行い、史跡記念碑・標柱等の状態を十分把握するとともに、補修や冬場の養生など必要な管理を行い、可能な限り長く状態が維持されるよう努めていくとともに、計画的に修繕を推進することが必要であることから、「現状のまま継続」と判断した。				R8： 計画していた史跡・標柱の修繕を完了した。今後も定期的な点検を行い、史跡記念碑・標柱等の状態の把握や冬場の養生などの管理を通して、可能な限り長く状態が維持されるよう努めていく。				R10：					

【PLAN】

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

【DO】

(単位：円)

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計 合計
			第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
投入された事業費の推移	国費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	道費	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	地方債	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	その他	計画額				0				0					0	0
		予算計上額				0				0					0	0
		実績額				0				0					0	0
	一般財源	計画額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	155,000	620,000	1,550,000
		予算計上額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000					0	930,000
		実績額	154,800	154,800	154,800	464,400	154,800	154,800		309,600					0	774,000
事業費合計	計画額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	155,000	620,000	1,550,000	
	予算計上額	155,000	155,000	155,000	465,000	155,000	155,000	155,000	465,000	0	0	0	0	0	930,000	
	実績額	154,800	154,800	154,800	464,400	154,800	154,800	0	309,600	0	0	0	0	0	774,000	
事業費予算の内容		「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助	「郷土研究」発行費を補助		「郷土研究」発行費 155千円	「郷土研究」発行費 155千円	「郷土研究」発行費 155千円								
前年度予算との比較 (増減理由)		前年度同額	前年度同額	前年度と同額		前年度同額	同額	同額								
実績との比較 (増減理由)		同額	同額	同額		同額	同額									

[CHECK · ACTION]

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：補助金額（郷土研究会補助金）	指標の求め方：補助金額（郷土研究会補助金）
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：郷土研究会会計会員数	指標の求め方：郷土研究会会計会員数

			第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7年度 (9年度)	第8年度 (10年度)	第9年度 (11年度)	第10年度 (12年度)	実施4カ年 合 計	第7期 総合計画 計
			第1年度 (3年度)	第2年度 (4年度)	第3年度 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年度 (6年度)	第5年度 (7年度)	第6年度 (8年度)	実施3カ年 合 計											
事業評価	指標	活動指標1 (単位/円)	計画値 155,000 実績値 154,800	155,000 154,800	155,000 154,800		155,000 154,800	155,000 154,800		155,000		155,000		155,000		155,000		155,000			
		成果指標1 (単位/人)	計画値 13 実績値 14	13 14	12 14		12 13	12 14	11		11		11		10		10				
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている			達成されている											
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					上がっている			上がっている											
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている			変わらない											
		総合評価					良好である			良好である											
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 郷土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成して おり、市の郷土 史等を後世に残 す貴重な資料と して位置づけら れるものとなっ ていることから、 目的を満たす実 績は一定程度の 上上がっている ものと判断する 。	自己分析： 郷土研究会の中 心的な活動であ る研究誌の印刷 製本費を助成し ており、市の郷 土史等を後世に 残す貴重な資料 として位置づけ られるものとな っていることか ら、目的を満た す実績は一定程 度上上がっている ものと判断する 。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を助成する ことで、市の郷 土史等を後世に 残す貴重な資料 として位置づけ られるものとな っていることか ら、「良好である 」と判断した。	判断理由： 郷土研究会の中 心的な活動であ る研究誌の印刷 製本費を助成し ており、市の郷 土史等を後世に 残す貴重な資料 として位置づけ られるものとな っていることか ら、「良好である 」と判断した。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成し、郷 土研究会の中心 的な活動である 研究誌の印刷製 本費を補助する ことで、市の郷 土史等の貴重 な資料を後世に 残す活動の後押 しとなった。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成してい る。郷土研究会 の中心的な活動 である研究誌の 印刷製本費を補 助することで、 市の郷土史等の 貴重な資料を後 世に残す活動の 後押しとなった。	自己分析： 活動指標・成果 指標ともに計画 値を達成してい る。郷土研究会 の中心的な活動 である研究誌の 印刷製本費を助 成しており、市 の郷土史等を後 世に残す貴重な 資料として位置 づけられるもの となっているこ とから、「良好で ある」と判断し た。												
			今後の方向性					現状のまま継続			現状のまま継続										
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 郷土研究誌は、郷土史を後世に伝えるために重要な資料であるとともに、郷土研究会の運営面においても主要な事業として機能していることから、教育委員会としても側面的な支援を行うため、「現状のまま継続」とした。				R8： 郷土研究誌は、郷土史を後世に伝えるために重要な資料であるとともに、郷土研究会の運営面においても主要な事業として機能していることから、教育委員会としても側面的な支援を行うため、「現状のまま継続」とした。				R10：									

第 7 期 総 合 計 画 事 務 事 業 進 行 管 理 調 書

【PLAN】

事務事業の目的と成果

総合戦略掲載	×	過疎計画掲載	×
--------	---	--------	---

事業名	郷土資料収集・管理・活用事業				事業期間	昭和23年度 ～ 年度								
事業性質区分	新規・継続	継続	建設・建設外	建設外	第7期総合計画の位置付け	3-4-2	他に関連する基本事業	—	—	—	—	—	所管課係	公民館管理係
目的 (何のために実施するのか)	市の歴史を後世に伝える郷土資料について、適切に収集・管理するとともに、積極的な周知を行い教育資料などとして有効に活用を図ることにより、郷土に対する愛着や先人の知恵を知る機会を提供する。							手段 (どのような方法で実現するのか)	市民等から情報提供を受けたなかから、砂川市に関連があり特に貴重と思われるものを重点的に収集し、適切に保存する。使用可能なものについては、教育資料として貸出しするなどして活用してもらう。					
対象 (誰・何を対象としているのか)	市民							成果 (どのような効果が得られるのか)	郷土資料を適切に収集・管理することにより後世に継承することができる。また、資料の積極的な周知を行い、活用の機会を確保することにより郷土に対する理解や愛着を深めることができる。					
事業開始時の状況・これまでの経緯		視聴覚ライブラリーや郷土資料室に保存・収集している映像や音声資料のうち、郷土資料として後世に残すべき資料を選別し平成30年度(市政施行60周年)から令和3年度までの4年にわたりデジタル化を行った。												

【DO】

実績

(単位：円)

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 計
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合 計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合 計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合 計	
投入された事業費の推移	国 費	計 画 額					0				0						0
		予算計上額					0				0						0
		実 績 額					0				0						0
	道 費	計 画 額					0				0						0
		予算計上額					0				0						0
		実 績 額					0				0						0
	地 方 債	計 画 額					0				0						0
		予算計上額					0				0						0
		実 績 額					0				0						0
	そ の 他	計 画 額					0				0						0
		予算計上額					0				0						0
		実 績 額					0				0						0
	一 般 財 源	計 画 額	467,000	1,000	1,000	469,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	476,000
		予算計上額	467,000	1,000	1,000	469,000	1,000	1,000	1,000	3,000						0	472,000
		実 績 額	466,334	1,000	1,000	468,334	1,000	1,000		2,000						0	470,334
	事業費合計	計 画 額	467,000	1,000	1,000	469,000	1,000	1,000	1,000	3,000	1,000	1,000	1,000	1,000	1,000	4,000	476,000
		予算計上額	467,000	1,000	1,000	469,000	1,000	1,000	1,000	3,000	0	0	0	0	0	0	472,000
		実 績 額	466,334	1,000	1,000	468,334	1,000	1,000	0	2,000	0	0	0	0	0	0	470,334
	事業費予算の内容		消耗品費(用紙代)1千円 デジタルデータ委託料 466千円	消耗品費(用紙代)1千円	消耗品費(用紙代)1千円			消耗品費(用紙代)1千円	消耗品費(用紙代)1千円	消耗品費(用紙代)1千円							
			用紙代1千円は前年度同額。デジタルデータ委託料9千円増額。	デジタルデータ委託料の減	前年度と同額			前年度と同額	前年度と同額	前年度と同額							
			資料デジタルデータ化委託料見合わせ減	同額	同額			同額	同額								

【CHECK・ACTION】

指標の推移・評価

活動指標 1（「手段」をもとに設定）	指標名：年度内に収集した資料数	指標の求め方：年度内に収集した資料数をカウント
成果指標 1（「成果」をもとに設定）	指標名：郷土資料室利用者市民利用率	指標の求め方：郷土資料室利用者数/住民基本台帳人口（3月末）×100

				第1次実施3カ年計画				第2次実施3カ年計画				第3次実施4カ年計画					第7期 総合計画 総合
				第1年次 (3年度)	第2年次 (4年度)	第3年次 (5年度)	実施3カ年 合計	第4年次 (6年度)	第5年次 (7年度)	第6年次 (8年度)	実施3カ年 合計	第7年次 (9年度)	第8年次 (10年度)	第9年次 (11年度)	第10年次 (12年度)	実施4カ年 合計	
事業 評価	指標	活動指標1 (単位/点)	計画値	50	50	50		50	50	50		50	50	50	50		
			実績値	106	426	628		56	210								
	成果指標1 (単位/%)	計画値	10	10	10		10	10	10		10	10	10	10			
		実績値	3.5	5.7	6.5		9	9									
	評価内容	事業の達成度 (活動指標をもとに評価)					達成されている				達成されている						
		事業の成果 (成果指標をもとに評価)					変わらない				変わらない						
		事業の効率性 (事業費に対する成果)					上がっている				上がっている						
		総合評価					良好である				良好である						
		総合評価の判断理由または指標の実績値に関する自己分析	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和2 年度より1人減 少しているが、 小学校の団体見 学など教育資料 として有効な利 活用が図られて いて、一定の実 績が上がっている。 ボランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和3 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など教 育資料として有 効な利活用が図 られていて、一 定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和4 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など教 育資料として有 効な利活用が図 られていて、一 定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	判断理由： 1日当たりの利用 者数は令和3 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など教 育資料として有 効な利活用が図 られていて、一 定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきており、「良好である」 と判断した。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和5 年度より1.2人 増加し、小学校 の団体見学など 教育資料として 有効な利活用が 図られており、 一定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和6 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など 教育資料として 有効な利活用が 図られており、 一定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和6 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など 教育資料として 有効な利活用が 図られており、 一定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和6 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など 教育資料として 有効な利活用が 図られており、 一定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	自己分析： 1日当たりの利用 者数は令和6 年度と変わらない が、小学校の 団体見学など 教育資料として 有効な利活用が 図られており、 一定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきている。	判断理由： 1日当たりの利用 者数は横ばいだが、小学校 の団体見学など 教育資料として 有効な利活用が 図られていて、 一定の実績が上 がっている。ボ ランティアにつ いては、郷土資 料室に関連する 事業の情報提供 を行い、協力を 呼び掛けるなど、 郷土資料室活動 に気軽に参画で きてきており、「良好である」 と判断した。					
			今後の方向性					現状のまま継続				現状のまま継続					
	方向性の判断理由 改善、改革の内容 (R5、R8、R10)			R5： 魅力のある資料室となるよう展示資料の入れ替えや作成、さらには郷土資料室内展示の改修を検討していく。小学校等の団体見学に利用されており学習教材として利用されている。 視聴覚ライブラリーや郷土資料室に保存・収集している映像や音声資料のうち、郷土資料として後世に残すべき資料を選別してデジタル化し、適切に管理・保存し活用する。収蔵場所の狭隘化の対策として、引き続き資料の整理を進めることから、「現状のまま継続」と判断した。				R8： 魅力のある資料室となるよう展示資料の入れ替えや作成、さらには郷土資料室内展示の改修を検討していく。小学校等の団体見学に利用されており学習教材として利用されている。 視聴覚ライブラリーや郷土資料室に保存・収集している映像や音声資料のうち、郷土資料として後世に残すべき資料を選別してデジタル化し、適切に管理・保存し活用する。収蔵場所の狭隘化の対策として、引き続き資料の整理を進めることから、「現状のまま継続」と判断した。				R10：					